

## 「第11次基本計画 素案」に対するパブリックコメントの実施結果

### 1 意見募集の概要

#### (1) 意見募集の期間

令和2年10月5日（月）から令和2年10月26日（月）まで

#### (2) 素案の公表方法

①小諸市ホームページへの掲載

②小諸市役所（1階展示情報コーナー・3階企画課窓口）、市立小諸図書館、小諸市文化センターに閲覧用として設置

#### (3) 意見募集の方法

①郵送

②電子メール

③ファックス

④直接持参（小諸市役所企画課）

### 2 意見募集の結果

#### (1) 意見等の提出者

9名

#### (2) 意見等の件数

54件

#### (3) 提出方法の内訳

①郵送 0名

②電子メール 5名

③ファックス 2名

④直接持参 2名

#### (4) 提出された意見等の概要とそれに対する市の考え方

別紙のとおり

## 第11次基本計画素案 パブリックコメントに対しての市の考え方

該当箇所	ご意見	市の考え方
各政策	政策の各項目の冒頭に「ミッション」という言葉が使われています。日本語に置き換えて発信してほしいと思います。	「ミッション」という言葉は第9次基本計画から使用しています。一般的にも定着している言葉であると考えており、引き続き使用したいと思いますのでご理解ください。
各施策	「関係課」と「関連課」という記載があるが、違いは何か。	違いは特にありません。「関連課」として表現を統一します。
各施策	<p>「施策」は「政策」（目標）達成のための具体的行動の指針となるものと私は認識しておりますので、より具体的な実行計画が求められます。「方針」、「目標」の項目は、お得意の「お役所しごと」で装飾が可能でしょうが、肝心の「目標値」は目標に向かって努力した「結果」を評価する指標となりますので、具体的な表現が必要です。行政でもよく「PDCAサイクル」と言われていますが、今回の施策の中には評価の対象となる目標値が明示されていない所管が複数見受けられます。</p> <p>具体的には、目標値が「前年度より改善」と表記されている所管が14部署あります。いろいろ事情はあるのかもしれませんが実に嘆かわしい。最初から改善の意思が見えてきません。そもそも、基本計画は小諸市を良くして住みよいまちづくりに、という目標のために毎年改善を積み重ねていくものと認識しております。すなわち、「改善」が前提の計画なはずです。いろいろ努力して結果が伴わず目標値を下回ってしまった場合評価は×ですが、そこからが大切です。きちんと評価分析して何がマイナス要因だったのか、それを改善して良評価にするには何をすればいいのか、これが「カイゼン」です。評価できないから目標を立てなくてもいいや、ではありません。毎年結果を評価して、悪くても次年は改善できる方策を考える、これが泥臭く汗臭い作業です。評価ができないような項目は、改善の進度がわかる測定方法を考えればいいかと思います。</p>	<p>今回の素案の中では、根拠があまりなく各年度の数値設定が難しい目標値については、「前年度より改善」という表記にしています。</p> <p>しかし、ご意見いただいたように、具体的な数値を設定することは評価や改善を行っていくうえで重要であるとともに、「前年度より改善」という表現であると、改善する意欲が低いように捉えられてしまうこともあるため、「前年度より改善」と表記していた目標値については、具体的な数値を記載するよう変更します。</p>
政策1 ミッション	「小諸ならではの子育て・学び」とあります。その下に◎で7項目が挙げられていますが、どの項目が「小諸ならではの子育て・学び」につながっているのかがはっきりわからないのでその点について教えてください。	「小諸ならではの子育て・学び」の意味するものは、小諸の人々・地域・歴史などに根ざした地についての「子育て・学び」を言います。ことさら目立つことであったり、特異なことを指しているわけではありません。高い市民満足度が得られる、小諸に即した「子育て・学び」とご理解ください。
政策1 方針	「生きる力の育成」の中で使われている「自己肯定感」についてですが、何を持って「自己肯定感」ととらえているのでしょうか。いつでも「前向きに、元気に、明るく、積極的に」学習に向かう姿が「自己肯定感がある」状態というとらえ方だとしたら、この「自己肯定感」は大人目線からのものであって、それは子どもにとって大変辛く苦しいことだと感じますし、子どもを追いこむことにつながりかねないと思います。子どもの目線からの「自己肯定感」とは何かを考えてほしいと思います。	子ども自身が感じる自己肯定感であり、ご提言いただいた考え方と同じとらえ方です。

該当箇所	ご意見	市の考え方
政策1 方針	<p>「教育環境の充実・整備」は行政の役割として当然求められていると思います。いま、コロナのもとで全国的に訴えられているのは、文部科学省でも言い始めていると承知しているつもりですが、1学級の定員のさらなる縮小である「20人学級」の導入です。この件について、どのように考えておられるかお聞きしたいと思いますし、是非、計画案に加えていただきたい内容です。</p>	<p>小諸市独自の施策として「20人学級」を実施することが困難なことはご理解いただけるかと思えます。思いは同じですが、小諸市の基本計画で掲げるには至らないものと考えています。</p>
政策1 方針	<p>「音楽のまち・こもろ」と言う言葉の印象は決して悪くないと思います。ただし、今なぜ「音楽」かと考えたとき小諸高校に音楽科があること、野岸小学校や東小学校の管楽器クラブの全国的な活躍や美南が丘小学校合唱クラブの活躍などが発想の根底にあるように思えます。これらの課外クラブを担当する教職員の私生活を犠牲にするような活動があってこれらの活動が支えられているということについての言及はありません。「音楽のまち・こもろ」と言う言葉の裏で、さらなる学校への負担(教職員・子ども・保護者)があるとしたら私としては首をかしげたくなる思いです。その点についてはどのようにお考えなのか教えてください。</p>	<p>多くの市民に支えられて「音楽のまち・こもろ」が成長しつつあります。学校教育に限らず、子どもから大人までが、音楽を身近に感じ、音楽があふれるまちづくりに向けて、多くの市民の皆様ができるところでお力を発揮していただくことが肝要だと考えています。</p>
政策1 方針	<p>「統廃合を含め施設の適切な整備」と言うことが「スポーツ振興・高地トレーニング」の中で言われていますが、現在の施設の統廃合をどのように考えているのかが示されていません。その点についてはいかがでしょうか。</p>	<p>少子高齢、人口減少社会が進むなか、小諸市では平成29年3月に、「小諸市公共施設等総合管理計画」を策定しました。この計画は、今後の公共施設等のあり方や、管理・運営方法の見直しを図るための方針を定めたものです。</p> <p>公共施設に関する基本方針としては、財政状況等も考慮する中で、①公共施設の総量縮減を目指す。②新規施設の整備は原則として行わない。③公共施設の有効活用を図る。ことが定められています。</p> <p>スポーツ施設についても例外ではなく、市民のニーズや施設の利用状況等を総合的に勘案して、統廃合も含め、適切に整備・充実していくことを考えていく必要があります。なお、具体的な施設のあり方については、今後検討していくこととなります。</p>
政策1 方針	<p>「人権」を大切にすることはとても大切であると思います。ですが、あえて「人権同和教育」という言葉を入れることには首をかしげます。それよりも国連が定めた「子どもの権利条約」の普及と徹底こそが急務だと思っています。「子どもの権利条約」こそ計画案に入れるべきだと思います。</p>	<p>広義的に考えれば、「同和教育」も「人権教育」の一つであると考えますが、本市では、同和教育（部落差別問題）については、歴史的経過や取り組みの経過を踏まえ、現在も1丁目1番地の人権課題として捉えており、あえて、表現として「人権同和教育」という名称を使用しています。「子どもの権利条約」ですが、国の「人権教育・啓発に関する基本計画」の中で、“子どもの人権尊重”が明記されており、また、「小諸市部落差別等あらゆる差別をなくす総合計画」の中では、「児童の権利に関する条約」を明記し、現状や課題、取組みの方向を示しています。「子どもの権利条約」が大事なことは言うまでもありません。教科書をはじめとして、しっかりと取り上げられ普及していくべき内容で、「人権同和教育」もこれまで同様、差別をなくし、すべての人の人権が守られる社会をつくるためにも、力を合わせていくことが肝要と考えています。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
施策1-1	1つめは「登校拒否・不登校・いじめ」の児童・生徒について一言も触れられていないことへの疑問です。なぜ、触れていないのでしょうか。2つめは「教職員の働く環境」についてです。「過労死」と言われるほどの超過勤務が続く教職員の実態についても何も触れていません。国は教職員の「単年度ごとの変形労働時間制」を導入しようとしています。これが導入されてしまうと、教職員はもっと過酷な労働環境に追い込まれることとなります。小諸市として、この制度は導入しないことを長野県にはっきりと伝えるとともに、小諸市としてこの制度は導入しないことを明言すべきです。ただでさえコロナの元で追い込まれている教職員の皆さんです。これ以上の負担を強いることは、教職員の命ばかりか、子どもたちにも必ず影響が出てくるものです。全国的にも、「導入反対」の声を上げている自治体があります。小諸市もそれらの自治体の姿勢を見習ってほしいと切に願うものです。	ご意見いただいた内容は重大な課題であると考えます。現状と課題の末尾に以下の内容を計画案に追加します。 「また、学校現場で質の高い指導が行われるためには、「教職員の働き方改革」を推進し、教職員が子どもと向き合い時間を確保することが課題となっている。不登校やいじめの改善に向けた継続的な支援等についても、さらなる取り組みが必要である。」
施策1-1 目標値	『全国学力状況調査』の「目標値」が100（全国平均）で止まっているのはなぜか。 <b>【理由】</b> 「目標値」が100（全国平均）で止まっているは、いつまで経っても超えられないと思うから。	無理な目標値設定をするのではなく、まずは100（全国平均）を目指したいと考えています。
施策1-1 目標値	『全国体力状況調査』の「目標値」が100（全国平均）で止まっているのはなぜか。 <b>【理由】</b> 「目標値」が100（全国平均）で止まっているは、いつまで経っても超えられないと思うから。	全国学力状況調査と同様、無理な目標値設定をするのではなく、まずは100（全国平均）を目指したいと考えています。
施策1-1 目標値	『学校へ行くことを楽しいと思っている児童・生徒の割合』の「目標値」が、「現状値以下」となっているのはなぜか。 <b>【理由】</b> 「目標値」は、100を目指さないと問題の把握・根絶は図れないと思うから。	小学校は増加傾向にあるものの、中学校は減少傾向にあり、小学校と中学校の平均値で見ると若干減少傾向にあります。将来にわたって現状値をずっと維持し続けることを目標としています。
施策1-1 目標値	「目標指標」に、『不登校率』を加えてはどうか。 <b>【理由】</b> 小諸市の不登校率は県下でも最も高い水準にある。目標設定は状況改善には欠かせないと思うため。	不登校の児童・生徒、また、そのご家族の心情を鑑みると、不登校率は目標指標にはそぐわないと考えます。なお、不登校の改善に向けて、学校では担任をはじめとするチーム全体で、その子一人ひとりに合った対応を心掛けており、また定期的に開催している不登校対策委員会においても情報共有を図り、小中連携の取り組みを進めています。

該当箇所	ご意見	市の考え方
施策1-1 目標値	<p>「目標指標」に、『ICT教育の実施率』を加えてはどうか。</p> <p><b>【理由】</b> ICT教育の実践が始まるので、その効果把握と着実な進展のため目標設定は欠かせないと思うため。</p>	<p>これからは、ICTを活用しつつ、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなすことが重要と考えています。しかし、ICT教育の実践は時代の流れで必要なことではありますが、ICT教育の実施率を目標指標とした際の数値の把握が難しいと考えます。</p>
施策1-1 目標値	<p>「目標値」が示されています。その1項目目が「全国学力テスト」に関わるものです。全国平均値を上回ることが目標とされ、その理由として、「全国学力状況調査の結果が向上すれば、「学力」の習得の度合いが向上したと考えられるから」とあります。果たして本当にそうなのでしょうか。「学力テスト」で示される結果は、子どもの学力のほんの一部分を見るものであって決して子ども全体を見るものではありません。このような目標値を設定すること自体が学校になじむものではないと思います。このような目標値の設定は止めてほしいと思います。同様に2項目目の「体力調査」についても言えると思っています。3項目目の目標値ですが、「学校に行くことが楽しい」と思っている児童・生徒の割合が示されています。その理由とされていることが、「学びに対する意欲や喜びが高まり、生きる力の育成につながる」とあります。ここで言う「学び」は何を持って「学び」としているのかわかりません。「学びに対する意欲や喜び」は子どもひとり一人皆違います。それをあえて目標値とすることには無理があると思います。</p>	<p>教育に関する成果指標については、ただ単に数値で表すことが適当ではないと考えますが、政策を実現するための施策の達成状況などを検証するための目標値や実績値は、客観的な数値を設定することになっています。他の指標も検討したものの、適当な指標がない中で、同一の子どもの経年変化を見ることができるところに着目して設定しています。今回設定した3つの指標は、いずれも、小諸市内の小学校・中学校の平均値を実績値としています。各学校の実績値を見ると、学校それぞれの方針や地域性の違いによる特色が表れており、それは当然の結果であり、今回設定した3つの指標だけですべてを評価できるものではないと考えています。</p>
施策1-2 目標値	<p>「目標指標」に、『ファミリーサポートセンター等の利用者数』を加えてはどうか。</p> <p><b>【理由】</b> 来年度から運用が始まるので、その効果把握と運用改善のため目標設定は欠かせないと思うため。</p>	<p>多様化する子育てニーズに対応する保育サービスの充実として、ファミリーサポートセンター事業や病児保育事業を複合型中心拠点誘導施設で開始しますが、施策の目標としては、個々の事業効果でなく、それも含めた保育サービス全体の充実を目指した目標設定としています。またファミリーサポートセンター等の評価は、利用者数によって計るより、利用者からの意見等をしっかり把握して評価、改善につなげていきたいと考えます。</p>
施策1-3 目標値	<p>「目標指標」に、『市内コンサート等の開催数・主催団体数・演者スタッフ数』等を加えてはどうか。</p> <p><b>【理由】</b> 「まちじゅうに音楽があふれている状態」にするには、聴き手だけでなく、演者や関わるスタッフの育成支援が必要だから。</p>	<p>市内では、市の施設以外でも様々なコンサートが開催されており、目標指標とする場合、主催者に届け出を求める必要が生じ、主催者の負担となる可能性があることから、目標指標とすることは考えていません。</p>
施策1-4 目標値	<p>「目標指標」に『小諸ふるさと遺産の認定件数』を加えてはどうか。また「認定プレート」などは必要ではないか。</p> <p><b>【理由】</b> 認定件数を増やすことで、「地域のお宝周遊ルート」の開発につなげることができると思うから。</p>	<p>小諸ふるさと遺産事業は地域発元気づくり支援金を活用して3年間実施してきました。今後は、認定件数に縛られることなく、市民自らがふるさと小諸の魅力を再発見していただく取組みが重要と考えますので、目標指標に小諸ふるさと遺産の認定件数を加えることは考えていません。なお、認定プレートはボード製の認定証を作成し、掲示しています。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
施策1-5 目標値	<p>「目標指標」に『スポーツ交流人口・団体数』を加えてはどうか。</p> <p><b>【理由】</b> 高地トレーニング事業の実績把握と着実な進展をアピールするため。</p>	<p>スポーツ交流人口・団体数については、具体的な数値として把握できない状況ですので、指標として設定するのは困難です。なお、参考ではありますが、「高地トレーニング等推進事業」において、「高地トレーニング関係の延べ宿泊者数」を活動指標としています。</p>
施策1-6 目標値	<p>1項目目ですが「現状値9.8%」を今年度「0%」にすると書かれています。ただし、計画案の中ではそのための具体的な対策が明示されていないように思えます。目標値が「絵に描いたもち」にならないような対策をどのように示しているのか教えてください。2項目目、女性の参画率が50%ではなくなぜ45%なのか、その理由が知りたいです。</p>	<p>基本計画の下位計画である実施計画や、人権に関する個別計画である「第5次小諸市部落差別等あらゆる差別をなくす総合計画」において幅広く市民への人権に対する啓発を行うなど、具体的な取り組みについて示しています。</p> <p>ご意見のとおり、男女同率の50%と考えますが、本年度は、40%を下回ってしまいました。現状を考慮して、45%で設定しています。なお、県内19市では、本市の目標率が一番高く、他市は40%又はそれ以下の目標値となっています。具体的な取り組みについては、「男女共同参画こもろプラン6（改定版）」に定めています。</p>
施策2-1 目標値	<p>一人一日当たりのごみの排出量は家庭ごみだけのgの記載で、長野県は平成30年度の実績は5年連続日本一の811gです。これと連動する意味でも事業系を含めての記載が妥当と思います。また、数値も平成元年度環境白書18pとの整合性はどうか理解すればよろしいですか？どうしても家庭ごみにこだわるのであれば環境白書の記載方法が望ましいです。</p>	<p>市の環境白書及び長野県で使用している実績値については、環境省で毎年実施している一般廃棄物実態調査により、集計したものについて、翌年に公表している値となっています。そのため、基本計画の目標値としては1年間のタイムラグが生じることから、市で集計した収集量から集団回収分を除いた値を目標値の指標としたものです。しかしながら、ご指摘のとおり、市で公表している環境白書の値と相違があること、また、他の自治体との比較ができないことなどから、環境白書で使用している環境省の公表値に指標を修正します。また、事業系一般廃棄物の排出量については、目標値③で年間排出量を指標としていることから、目標値①については、環境白書に合わせ家庭系ごみを指標とし、括弧書きで市全体の排出量を示すこととします。</p>
施策2-1 目標値	<p>「目標指標」に『不法投棄の処理件数』を加えてはどうか。</p> <p><b>【理由】</b> 不法投棄の実態の周知と市民意識の高揚を図るため。</p>	<p>パトロールは実施していますが、不法投棄の全件把握は現実的には困難であることから、処理件数を指標とすることはそぐわないものと考えます。不法投棄防止に向け、広報等を使い実態等について周知します。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
<p>施策2-2 目標値</p>	<p>目標値の「長野県SDGs推進企業登録制度」に登録している企業は毎年5団体と目標を立てるのでなく、令和3年30団体令和4年40団体令和5年度50団体位は十分可能です。毎年+5でなく、ここ1～2年が勝負です。 目標値③の市民意識の前年度より改善と毎年記載していますが、何をモノサシに改善と判断するのですか？理解できません。何もしないで結果は生まれません。 エコアクション21およびISO14001認証・取得事業を増やす項目を追記すべきです。</p>	<p>目標値①長野県SDGs推進企業登録制度に登録している企業の数については、県が公表している事業者数から目標値を設定したのですが、県で公表している第5期登録分までで、市内10事業者の登録が確認できましたので、令和2年度以降の目標値を変更します。 目標値③につきましては、市が毎年実施している市民意識調査の結果を指標としているものです。 「前年度より改善」という表記につきましては、具体的な数値を設定することは評価や改善を行っていくうえで重要であるとともに、「前年度より改善」という表現は改善する意欲が低いように捉えられてしまうこともあるため、「前年度より改善」ではなく、具体的な数値を記載するよう変更します。 第10次基本計画まで指標としていた、エコアクション21及びISO14001認証・取得事業者数につきましては、実数を把握することが困難であることから、目標値①の長野県SDGs推進企業登録制度への登録数に変更をしたものです。指標としては設定しませんが、引き続き事業者へ認証・取得の推進は実施していきます。</p>
<p>政策3 ミッション</p>	<p>「ミッション」の中でも言われていますが、「複雑化かつ深刻化する地域福祉課題」とは具体的にどんなことなのか、もう少し丁寧な説明をしていただきたいです。</p>	<p>現状におきましては、少子高齢、核家族化が進み、地域における人と人とのつながりが希薄化するなど社会情勢が変化する中で、子育て、介護、障がいなどを抱え支援を必要とする世帯が増えています。具体的には、子ども・高齢者・障がい者に対する虐待や、ひきこもり、社会的孤立、生活困窮、自殺などの課題があり、それらの課題を複合的に抱える世帯も少なくなく、「複雑化かつ深刻化する地域福祉課題」と表現しました。それらに対する対策としては、政策の下にある「施策、事業」及び「小諸市地域福祉計画・地域福祉活動計画」、「高齢者福祉計画」、「小諸市障がい者プラン」等個別計画に定めていますので、基本計画では簡略化した表記としましたのでご理解ください。</p>
<p>施策3-1 目標値</p>	<p>「目標指標」の『平均自立期間』を、『健康寿命』にしてはどうか。 <b>【理由】</b> 「日常生活動作が自立している期間の平均を指標とした健康寿命」というのは、「幼児期」は含まれているのかどうか分かりづらいため。 行政は、市民に対して、より分かりやすい表現を心がけてもらいたい。「聞きなれない・難しい用語」等を使う時は、分かりやすい解説が必要。 ※ 世の中の複雑さ、難しさに高齢者のみならず、多くの方がストレスを感じている。分かりやすさを前面にお願いします。</p>	<p>第10次基本計画までは「健康寿命」を目標の指標としていました。今回、算出のためのデータを一部変更したことから「健康寿命」から「平均自立期間」に変更したものです。「健康寿命」の算出においては、「日常生活動作が自立している期間の平均」を指標としており、今までは介護保険の要介護度の要介護2～5を不健康な状態として算出しています。つまり、65歳未満は健康な状態と仮定して算出していました。今回変更しました「平均自立期間」につきましては、不健康な状態に、40歳～64歳の疾病の罹患者も含まれており、より正確な数値となっています。また、この数値は国保のデータベースシステムにより簡易に算出することができるとともに、他市との比較も可能なことから第11次基本計画から採用したものです。表記につきましては、全国的に統一されたものであるため、この表記のままとします。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
施策3-2 目標値	<p>「まいさぼ小諸」の指標の目標値は、「終結者数」でなく「終結者割合」にすべきではないか。</p> <p>【理由】 単に「終結者数」の増減では、分母次第で意味のない数字となるから。しかも「設定理由」欄に、割合と記載してある。</p>	<p>生活困窮者自立支援事業開始年度以降より活動指標として目標値を終結者割合(%)としていましたが、平成30年度から終結者数に変更しました。その理由は、国内景気の影響による相談者数の増減や雇用情勢の変動を踏まえ、複数年にわたる継続支援の必要性、また現行の相談支援体制から判断し、割合での目標値より終結者数による目標値の方が現実的であるためです。なお、設定理由の説明にある「割合」は「人」に修正します。</p>
施策3-3 目標値	<p>「目標指標」に『一日の内、外出しない、誰とも会わない・話さない年間日数(少ないほど良い)』を加えてはどうか。</p> <p>【理由】 「引きこもり・閉じこもり」と「フレイル(虚弱、老衰、脆弱)」との因果関係から、問題の解決に向けて目標値を設定する必要があると思うから。市民意識調査にあわせ、コロナ禍の中、特に高齢者の生活実態調査が必要と考える。</p>	<p>市民意識調査は16歳以上の市民を対象としており、回答状況を見ますと、50代以下の方が半数以上、世帯構成では単身の方の回答率が10%という状況で、誰とも会わない・話さない高齢者の実態という点では資料が少ないかと思われます。</p> <p>引きこもり・閉じこもりなど社会参加がないことによりフレイルとなることの因果関係は、国・大学などの機関で既に証明されておりますが、本市のアンケートで「引きこもり・閉じこもり」であると回答をした高齢者に対し、その後を追跡調査しフレイルとの因果関係を証明することは出来ないため、目標指標は現状のままとします。</p> <p>なお、高齢福祉課では、3年に一度、高齢者を対象とした実態調査を行っており、その調査項目に「週の外出回数」、「自分の心配事などを聞いてくれる人、聞いてあげる人」など調査し、高齢者の生活実態を把握し閉じこもり予防のための啓発に生かしています。</p>
施策5-1 目標値	<p>・目標値ロジックの変更 現在の目標値「指標名 こもろ愛のりくんの収支比率(目標値 13→14→20→22→25%)」であるが、収支比率をどんどん良くするためには、①客単価を上げる、②客数を増やす、③支出を減らす、の3つを同時に進める必要があるが、達成のためには以下のような案が考えられる。</p> <p>・対策案 ①@300円を値上げする、@100円の人を減らす。②登録者を増やし、なおかつ利用者を増やす。③乗車率を上げる、便数を減らす、定員オーバーの予約を断る、オペレーター時給減、コールセンター費減。しかし、これらを達成するのは著しく困難である。せいぜい②がそれなりに達成できるかどうか。①③は利便性を損ない、評判を下げる可能性が大である。収支率25%達成時には「利便性と効率性の両立」どころか、利便性の悪さと運転手とコールセンターの対応の悪さから評判を落とし、事業存続が難しくなってしまうと思う。では、目標値をどのように改善するか。 例えば、「令和5年度、収支率15%以上、かつ市民満足度15%以上(『コミュニティバスなどの地域交通』「満足」「やや満足」の合計)」(現在収支率13%、市民満足度11%(H29)だから、段階的に引き上げる)</p> <p>・理由 収支と利便性が高い次元で両立できていると考えられるから。</p>	<p>こもろ愛のりくんの令和元年度の平均乗車人数は、1台当たり2.5人です。運行改善の目標として、平均乗車人数を3人とする事で、年間利用者数の目標値を60,000人といたしました。この利用者数の目標は、現在のこもろ愛のりくんの30分間隔の運行では、平均乗車人数3人が、最大値に近いものと考えており、今回の見直しの方向性の中では朝8時からの運行時間の拡大が利便性を高めるものと考えています。収支比率の目標値の設定ですが、今回の見直しの方向性では、乗車料金の値上げは行わずに、運行時間の拡大や、使用促進方策に取り組むことによる利用者の増による収入の増額と、朝夕の愛のりすみれ号の休止やタクシー応援の廃止などによる運行事業費の削減を並行して進めることにより収支比率の改善を目指すもので、令和5年度の25%の目標値は、「公共施設使用料設定基準」の受益者負担の考え方に基づいて目標値を設定したものです。</p> <p>以上のことから、施策5-1に係る目標値につきましては、現行の目標値を使用していきたいと考えています。</p> <p>なお、ご指摘の趣旨にある、利便性に係るこもろ愛のりくん利用者および市民の満足度の基準値、事業費および収益の最適な金額については、今後、事業の改善・見直しにあつては、必要な項目であることから、基準値の検討を進めます。</p>



該当箇所	ご意見	市の考え方
施策5-4 目標値	<p>「目標指標」に、『防災士の資格取得者数』を加えてはどうか。</p> <p><b>【理由】</b> 地域防災力の向上には、「共助」の要となる人材の育成が不可欠であるため。</p>	<p>市の考え方</p> <p>小諸市では、現在117名の市内在住・勤務されている皆さんに防災士として登録をいただいています。しかし、高齢化のため活動できないという防災士も多いことから、積極的に活動している防災士は非常に少ない状況です。全国的に見ても進んでいる地域でも3割程度であるとのデータもあります。小諸市では防災士の資格が地域の中で十分に生かされていないという実態があることから、防災士が活発な活動ができるように、組織化が必要であると考えています。防災士の組織化ができていない状況では、防災士の資格取得者が増えても、地域防災力の向上には結びつかないことから、現時点での目標指標ではないと考えます。</p>
政策6 ミッション	<p>「ミッション」の中でも言われていますが、「参加と協働による市民主体のまちづくり」とありますが、今回の第11次基本計画(案)について、どの程度市民に行き渡っているのか、また、それに対するパブリックコメントを寄せる期間が大変短いのではないかと感じます。これでは「参加と協働」と言われても実感が持てないと感じる市民が多いのではないかと感じます。どのようにお考えになっているのか教えてください。</p>	<p>ご意見いただいたパブリックコメントの周知方法や期間について、次回の基本計画策定時の参考とさせていただきます。</p>
政策6 施策6-1	<p>「基本構想の地域別まちづくり方針との関連について」 基本計画は行政計画であり、「基本構想に示した目標を実現するための、各行政分野における施策を総合的、体系的に示すもの」であることは承知しております。 「政策分野別まちづくり方針」には「基本計画」がありますが、「地域別まちづくり方針」には基本計画に相当するものがありませんので、中間の進捗管理がやりにくいかと思えます。行政側としてサポートするのが、【政策6】協働・行政経営【施策6-1】であるかと思えますが、基本構想の大きな柱である地域別まちづくり方針への対応の記述が少ないと思えます。現在、総務省からは、「域運営組織」、国交省では「小さな拠点」「ふるさと集落生活圏」、環境省では「地域循環共生圏」の議論がなされています。小諸市として、これらの国の上からの動きに対して、市として地域の自治を振興担保するどうしていくのかの記述が欲しいと思えます。</p>	<p>地域別まちづくり方針への対応につきましては、総合計画審議会からも、進め方やそのための組織のあり方等についてご意見をいただいています。基本構想の中期にあたる第11次基本計画期間内に検討する予定でありますので、現時点では現行の表現にとどめさせていただきます。</p>
施策6-1 目標値	<p>「目標指標」を、以下のように変更してはどうか。 『過去3年以内に、区等で開催された行事や、市民参加型の会議等に参加したことがあるか』</p> <p><b>【理由】</b> 「市民協働」や「まちづくり」などは、実際に参加してみないと参加意欲は高まっていかないから。</p>	<p>ご提案いただいた内容はとても重要な観点であると考えますので、施策6-1目標値②「区等で開催される行事や活動に参加したと思う市民の割合（市民意識調査）」を「過去3年以内に、区等で開催された行事や活動に参加したことがある市民の割合（市民意識調査）」に変更します。ただし、市民意識調査の設問を追加することになりますので、令和元年度数値（現状値）はありません。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
<p>政策6 施策6-2</p>	<p>「行政のICT化推進について」 ICT化は効率化の観点からだけでなく、新しい生活様式、市民のアクセシビリティの観点からも力を入れる必要があると思います。例として【政策1】子育て・教育【施策1-3】【施策1-4】で、すでに刊行されている小諸市誌、市内生涯学習施設の所蔵資料がデジタルアーカイブ化されれば時間空間の制約を離れて、資料に接することができます。また、刊行が止まっている市誌の補正等もデジタル版で発行することにより、タイムリーな発刊ができると考えます。 予算、マンパワーの制約があると思いますが、市民参画型により順次デジタル化していくことは、市民協働につながると考えます。今進められてふるさと遺産の指定は、デジタル化を合わせて進めることにより、ふるさと学習とともにシティプロモーションにもつながると考えます。 他の分野でもICTにより市民が市が保有する情報にアクセスしやすくすることは重要と考えますので、ご検討願います。</p>	<p>行政及び地域のICT化、デジタル化については、記述が少ないと考えていますので、計画案の文中に以下の内容を追加いたします。ご指摘のように市民参画を図るうえで情報にアクセスしやすくすることは必要ですので、日々の業務の中で研究、努力していきます。また、ICT化、デジタル化に関しては、可能な限り実施計画の中に盛り込んでいく予定です。 【現状と課題】 「ICT（情報通信技術）を取り巻く環境が著しく進展する中、これらの技術革新を的確に把握し、行政サービスの向上に努めていく必要がある」 【方針】 「今や市民生活に欠かせないツールとなったICTを積極的かつ戦略的に活用することで、市民が利便性を実感できる市民サービスの向上と行政運営の効率化を図る」</p>
<p>施策6-2</p>	<p>「『価値前提』、『全体最適』の理念」という用語は、市民には理解できないのではないか。  【理由】 用語の解説がないため。 職員も全員理解できているのでしょうか？</p>	<p>用語解説を資料集として添付する予定であり、「価値前提」、「全体最適」についてはそちらに掲載します。</p>
<p>施策6-2 方針・目的</p>	<p>「市政経営の重要課題として、情報戦略によるシティプロモーションを位置付けることで、交流人口、関係人口の増加を図る。」について、「情報戦略」に、市行政による情報発信に加え、情報発信する市民を育てる、市外の小諸のファンによる情報発信を支援する視点の補強を提案します。</p>	<p>ご提言につきましては、具体的な施策として基本計画に盛り込むことはいたしません。市民が郷土の魅力に気づき、自ら情報発信をしていただくことは、大切な視点でありますので、如何にそのような市民や市外の小諸ファンを増やしていくか、今後、具体的に事業を実施していく際に検討させていただきます。</p>
<p>施策6-3 目標値</p>	<p>「目標値は設定しない」とあるが、「変数」が大きい場合は、「従前の目標値」を“そのまま”継続すべきと思うがどうか。（「令和2年度は財政目標を立てず」と記載してあるが、「財政目標」と議会決議との関係性はどのような位置づけなのか）  【理由】 この課の目標値は、「小諸市の財政規律・基準の維持」であり、コロナ禍によって「基準からの一時的な上下振れ」はあろうが、「基準」そのものが無くなると、戻り目安を失うことになるため。 「羅針盤を失い、ただ彷徨うだけ」となることを懸念する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策による支出が今年度に引き続き多額となることが予想されるため、第10次基本計画での数値目標を踏襲することは適切でないと判断しました。なお、令和3年度に財政計画を策定する予定です。計画案ができたところで議会にお諮りする予定です。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
<p>施策6-3 目標値</p>	<p>「令和3年度当初予算まで一時的な財政収支の不均衡を容認している」とあるが、最終的に「誰が」、「いつの時点で」容認しているのか？</p> <p>【理由】 議会の議決との整合性はとれるのかわからないため。</p>	<p>ご意見をいただいた箇所につきまして、「令和3年度当初予算編成の段階においては、一時的な財政収支の不均衡を容認せざるを得ない状況となっている。」という表現に改めます。</p>
<p>施策6-3 目標値</p>	<p>「目標指標」に『公共施設等の総量縮減』を加えてはどうか。</p> <p>【理由】 「公共施設等総合管理計画」には『3つの原則』があるが、ほぼ守られていないため、目標値を計上して、遂行状況を管理する必要があると思うため。</p> <p>例) 施設の「新設」の計画着工はあるが、「総量縮減」や「有効活用」の（売却・解体等）具体策は、見えていない状態である。</p>	<p>公共施設のあり方に関しましては、来年度までに進める財政計画の策定の中で、計画期間内の公共施設の整備内容についても検討することとしています。ただし、公共施設等の総量縮減につきましては、その内容から、基本計画（財政計画）の計画期間である4年間という短い期間でなく、より中長期的な視点で検討すべき課題と考えます。よって、施策の目標指標としての「公共施設等の総量縮減」の設定は適当ではないと判断します。</p>
<p>施策6-5</p>	<p>個人的な思いではありますが、私は「人材」という言葉がいつも心に引っかかります。市役所の職員の皆さん、とりわけ窓口で市民と直接対話したり対応したりする職員の皆さん、市民から日々、いろいろ苦情が寄せられたりすることもあって心労をかけているのではないかと思います。市役所の仕事が「住民へのサービス」だから仕方ないのではないかと、と言う考え方ではなく、市役所の職員も一緒になって小諸市を支えていく大切な「人財(宝)」だと思っています。市の幹部の皆さんには、「職員はサービスマンではなく、大切な宝物」という意識を持ってほしいですし、そんな視点で職員の成長を促して行ってほしいと願うものです。</p>	<p>ご指摘いただきましたご意見はごもっともであり、職員は市役所の貴重な財産であると認識しています。その財産にさらに磨きをかけ、個々の能力をフルに発揮し、市民の皆様へ還元できるように成長してもらう必要があると考えています。同時に、管理職はマネジメント能力を高め、成長した職員が効果的・効率的にサービスを提供し、有効に活躍できるような環境を整えることを含めて、「人材育成」という表現を使用しましたので、ご理解ください。</p>
<p>参考資料</p>	<p>「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」は何度拝見しても理解できません、造語で内容は素晴らしいですが、ウエルネス・シティやサードプレイスなどはまだまだ市民には浸透している言葉とは言えません、もっと親近感のある言葉に変更は出来ませんか。パブリックコメントするだけでも大変なレベルの高い内容過ぎると思います。</p>	<p>「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」は、本市の新たなビジョン・あり方として掲げた市長公約ですので変更はいたしません。皆様にご理解いただけますよう引き続き説明を行っていきます。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
その他	<p>「小諸市西部地域総合改革 西部地域の発展と、小諸市全体の発展に向けて」</p> <p>1 深沢水系総合活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的ダム築造（治水、利水、観光）</li> <li>・小水力発電所築造</li> <li>・遊歩道築造（深沢溪流沿い）高峰山系と千曲川水系を繋ぐ</li> <li>・キャンプ場築造</li> </ul> <p>2 浅間山ろく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽井沢から菱野温泉までの1000m道路整備</li> <li>・菱野温泉から深沢川までサイクリングロード構築</li> </ul> <p>3 上記から発展的効果</p> <p>1000m道路からの眺望は素晴らしい、軽井沢の富裕層の人達を小諸に呼び込む、水田・畑のほ場整備をお行い乗用車が入りやすくする、家庭菜園として田畑を貸し出し、管理は地元で行う。（軽井沢の富裕層がターゲット）農産物直売所も夢ではない。千曲川から高峰まで繋がることにより多種多様な人たちのニーズに応えられる。</p>	<p>今後の市政運営の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、軽井沢町からの誘客については、課題として捉えるとともに重要視している項目です。第11次基本計画素案施策4-3の中においても、関係人口の創出のため、軽井沢エリアとしてのブランド力を活かした情報発信を行っていくことを記載しています。</p>
その他	<p>インバウンド頼みを考えなおすとともに、生産拠点を海外ではなく、自国生産にすべきではないか。</p>	<p>インバウンド誘客は観光振興の重要な取り組みの一つです。このため基本計画の政策方針で国内誘客のほかインバウンドを含めた交流人口の増加を目指すとしています。現在の新型コロナウイルスの影響を踏まえると、当面は国内誘客を中心とした取り組みが必要と考えていますが、ご意見は参考とさせていただきます。企業の生産拠点の国内回帰は市としても期待しており、基本計画の政策、施策に「積極的な企業誘致」を盛り込んでいます。</p>
その他	<p>学校教育は、無理強いをせず、情緒発達に従って伸ばす・ほめるなどを行い、毎日学校に行きたくなるようにすべきではないか。</p>	<p>第11次基本計画の個別計画として策定を進めている、次期小諸市教育振興基本計画では、一人ひとりに応じた多様な学びの実現に向けた取り組みとして、児童・生徒一人ひとりを支えるうえで必要な人材を引き続き市単独で配置して、一人ひとりに寄り添った支援を継続的に進めることとしています。</p>
その他	<p>歩行者にとって安全な道路の整備をしていただきたい。</p>	<p>ご提言いただいたとおり、歩行者の安全は重要な点であると考えています。引き続き、安全な道路の維持・整備に努めます。</p>
その他	<p>退職した職員について、本人の申し出があれば70歳程度まで市民の声を聞く相談係とするのはどうか。</p>	<p>定年退職となる職員が、再任用職員としての希望者が年々増加していく中で、配属先の候補として十分考えられます。今後は、組織全体の人員配置を考慮しつつ検討していきます。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
その他	<p>出産に関する医療体制を整えるとともに、医師・助産師の不足については医院同士の協力により解消すべきである。</p>	<p>小諸市内には2つの産科医療機関があり、現在、余裕をもった受け入れ態勢があるとお聞きしており、出産に関する医療体制については整備されていると考えます。</p> <p>また、医師不足に対しては、医学生への奨学金貸与制度を設けて医師の確保に努めております。今後も医師の定着に向けて病院と連携をしていきます。</p>
その他	<p>「市民憲章、都市宣言との関連性について」 各政策、施策の市民憲章、都市宣言との関連性についてふれてはどうか。今回SDGsとの関連が整理されたのは良いことと思います。小諸市には市民憲章と都市宣言がされていますので、それを実現する手段としての政策、施策の記述に関連する市民憲章や都市宣言を記述し関連付けてはいかがでしょうか。市民憲章、都市宣言を意識し、その具現化に資するのではと考えます。</p> <p>【補足】 総合計画審議会がふさわしいかは別として、基本構想見直しの周期に合わせ、市民憲章、都市宣言がどのように具現化されてきているか、の評価が必要ではと考えます。また、市民憲章や都市宣言の改正についても議会と議論する必要もあるように思います。</p> <p>例 1 市民憲章の文体は語尾が「しましょう」という表現だが、宣言にふさわしい「します」表現が適切ではないか。 2 都市宣言について、「世界連邦平和都市宣言」「暴走族追放宣言」など現在その宣言が意義があるかどうか見直して整理が必要ではないか。 3 都市宣言のうちスケッチ文化都市宣言は、市民や来訪者が表現活動や創作活動を行うということより、その舞台を提供するというところに重きが置かれているように感じます。 生涯学習やシティプロモーションの観点から、市民や来訪者が積極的に表現活動を行うという趣旨に改めるのがいいのではないか。</p>	<p>「市民憲章」や「都市宣言」は、市民のあるべき姿の理想であったり、その時々々の社会的課題の解決に向けた市の姿勢を掲げたものであり、目標を定めて具体的なアクションを起こすことを前提としている「基本計画」とは性質が異なります。したがって、「市民憲章」や「都市宣言」を政策や施策と関連付けて「基本計画」に掲載することは考えていません。しかし、ご指摘の「市民憲章の語尾の表現」、「時代に合わなくなった都市宣言の整理や修正」につきましては、課題と捉えておりますので、今後の検討といたします。</p>
その他	<p>パブリックコメントの期間を、「総合計画審議会」の資料に反映させるために、一か月ほど前にずらした方が良かったのではないか。今回の日程では、せっかくいただく市民からの意見は「答申」に反映されるのか。</p>	<p>パブリックコメントのご意見をもとに計画案を修正し、総合計画審議会において計画案を再度審議しました。</p>
その他	<p>C02削減に貢献できるように公用車を電気自動車にして小諸市内外にアピールする。</p>	<p>環境に配慮したご意見をいただきありがとうございます。公用車の調達及びリースを行う際の参考とさせていただきます。</p>
その他	<p>アイドリングストップの機能がついていない公用車で長い信号待ちでドライバーの操作によるアイドリングストップの励行を徹底する。ガソリン代の節約と温暖化対策へ貢献できる。今すぐにできることだと思います。</p>	<p>経費削減と環境に配慮したご意見をいただきありがとうございます。アイドリングストップの操作については研究します。</p>

該当箇所	ご意見	市の考え方
その他	<p>高齢者の生きがいの一つとして、小諸市の役に立ってもらう為に、アルミ缶を回収して、プルトップと缶を分別して、質の高いアルミリサイクルを実現し、小諸市の財源へ寄与することと同時に、アルミ缶をつぶす作業により軽運動ができたり、仲間とコミュニケーションをとり、フレイル予防にもなるのではないのでしょうか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、フレイル予防は今後の重要項目としているところです。ご提案いただいた方法についても、検討します。</p>
その他	<p>人口減少に歯止めをかけるには、思い切った政策をとることが必要となることはご承知のことと思います。小諸市の市有地をこれから結婚・子育てをする若い世代の人たちに安く提供するのではなく、固定資産税の分だけ毎年地代としていただき、土地を貸してあげる。そうすると、経済的負担は、上物を建てる費用で済みますね。さらにその子どもたちが成長して家を出て老後二人きりになったら生涯その家で暮らしてもいいし、老人ホームなどを利用してもいい、家が必要なくなったら更地にして小諸市に返還してまた新たな若い世代に新築してもらって持続可能な循環ができるのではないのでしょうか。</p>	<p>市有地の有効活用や住宅施策に関しては喫緊の課題であると考えており、どのように進めていくか検討を行っている状況です。いただいたご意見も、参考とさせていただきます。</p>
その他	<p>引きこもりの人たちの支援として家から出ることが可能な人たちを対象に小諸市の所有する荒れた山林を整備してもらい森を作ると同時に森林浴や体を動かすことにより健全な体と心を取り戻す一助になるのではなかろうか。</p>	<p>安全性の確保などの課題はありますが、支援と山林整備の両面を考えた良いご提案ですので、今後の参考とさせていただきます。</p>